Opening Act
オープニング・アクト

晴花

▼公式 HP：HARUKA RHYTHM
http://72.xmbs.jp/halehanarocks/

伊藤充美

▼公式 BLOG：伊藤充美ブログ
http://ameblo.jp/mitsumi-mimimi/
▼公式 Twitter
https://twitter.com/itoumitsumi

本日のセットリスト

01. トビラ
02. なくしちゃいけないモノ
03. 古い日記（和田アキ子）
04. そばかす（JUDY AND MARY）
05. SWEET MEMORIES（松田聖子）
06. Let it go（アナと雪の女王・松たか子 Ver）
07. アンパンマンのマーチ（アンパンマン）
08. 桜の木の下で
09. 幸せのメロディー
10. Message
11. Imagine（ジョン・レノン 訳いなむら一志）
～アンコール～
12. smile

音楽活動10周年を記念して
フルアルバムを完成！！
「Rainbow」
（税込1,500円）
会場にて発売中!!

チャリティー CD、
東日本大震災復興応援ソング
「希望の灯」
（税込500円）
発売中!!

どちらもスマホ対応済みの、
iTunes Store
Amazon mp3
music.jp
ネット配信中！
詳しくは、
横の QR コードを
チェック !!

KAZ CHARITY LIVE 2014
To a heart of children V

「To a heart of children」

「子どもたちの心に」という意味です。活動を続けていく中で、私たちなりの想いや考えを受け止めていただき、その子どもたちが大人になった時に、また次の世代へ繋がっていけばという想いからタイトルを付けました。

目的

５年前からはじめた児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考え、ずっと活動を続けてきた音楽ならスタートしやすく伝わりやすいと考えから、ライブを通じて収益・募金、全額を寄付するチャリティーライブをはじめました。最低でも10年はやろうと決めて、今回で5回目の開催になります。

KAZについて

札幌を中心に音楽活動をしている「車椅子の歌うたい KAZ」です。生まれつき身体に障がいを抱え、日々の生活を電動車椅子に乗りながら生活しております。ただ音楽が好きという想いから、不自由な手でもギターが弾ける方法を、独自でギターの弦を上から手で押さえるという弾き方をあみだし、作詞･作曲･歌･ギターの演奏までを一人でこなし、人前で歌うようになって12年目になります。

活動を福祉の場へも向けるようになり、2010年から児童養護施設で暮らす子どもたちのために何かできることはないかと考えて、自身で企画したチャリティーライブを通じて、チケットの売り上げ、会場での募金、全額を寄付し、少しでも子どもたちに「喜んでもらいたい」という想いから活動を始めました。

活動歴

2003年11月テレビ朝日ストリートファイターズで取り上げられる
2005年05月1stCD「Message」発売
　　11月　2rdCD「ノエル。」発売
2006年11月3rdCD「君へノ贈リモノ」発売
2008年03月道新に特集を組まれる
　　8月　HBC テレビ Hana テレビに特集を組まれる
2008年10月4thCD「桜の木の下で」発売
2009年08月HBC テレビ総力報道！ THE NEWS に特集を組まれる
2010年09月チャリティーライブの宣伝で朝日新聞に取り上げられる
2010年09月「To a heart of children」Vol.1スタート
2010年10月児童養護施設訪問が道新日高版、日高報知新聞に取り上げられる
2011年07月5thCD「希望の灯」発売
　　（売上全額東日本大震災復興義援金として寄付）
2011年10月「To a heart of children」Vol.2　開催
2012年07月6thCD「Rainbow」発売（売上の一部を寄付）
2012年10月「To a heart of children」Vol.3　開催
2013年11月「To a heart of children」Vol.4　開催
2014年04月6thCD「Rainbow」の iTunes Store などのネット配信開始
2014年05月札幌人図鑑に取り上げられる

To a heart of children Vol. Vの寄付先

今年は、児童養護施設 光が丘学園（岩見沢市春日町２丁目３番７号）に寄付させていただきます。例年同様、寄付の使われ方は、子どもたちが参加する、行事やレクで必要な経費（飲食代など）に充てられます。寄付の様子などは KAZ の HP に随時アップしてまいります。また来年の To a heart of children Vol. VIでお渡しするパンフレットにも掲載させていただきます。

To a heart of children Vol. Ⅳの活動報告

ライブ動員数／50名
売上総額（募金、CD 売上含む）**／93,701円**

内訳／チケット売上：50,000円、CD 売上寄付：3,000円、募金：40,701円となり、「児童養護施設 歌棄（うたすつ）洗心学園」に寄付しました。
詳しい収支決算書については HP 参照願います。

報告

訪問先：児童養護施設
歌棄（うたすつ）洗心学園
（寿都郡寿都町字歌棄町歌棄270）
訪問日：11月16日（土）

毎回、各児童養護施設を訪問させていただく際には、ただ寄付して終わりというわけではなくて、こういう活動をしているからには、ほんのちょっとでも子どもたちが置かれている現状や、施設での生活の様子など質問させていただくようにしています。お話しをする中で見えてくる、本来の姿などが見えてくるのではないかと思うからです。

いつも思うのが各施設ごとに特色が違うということです。どちらかといえば過去に訪れた施設では、乳幼児から小学高学年が半数を占めていたと思います。歌棄洗心学園さんでは、逆に乳幼児が極端に少なく中高生が半数を占めていました。地域の特性らしいのですが、中高生の割合が多いのは、結構まれだと話していました。

基本的に高校卒業に伴い施設を出る子どもたちに対しては、国からの補助等はなくなり、大学・短大・専門学校などの進学への道というのは、正直厳しく、数年前までは、子どもたちの意識自体も卒業したら働くしかないという思いが頭に浮かび、勉強に力を入れる子どもは少なかったようです。地域柄の問題もあり、学費を貯めるためのアルバイトできる環境もなく、卒業＝仕事となるようでした。

ただ最近では国の方針転換もあり、20歳の誕生日までは、いわゆる生活費にあたる部分が支給され始め、併せて施設側でも努力し、進学という新たな選択肢も提案できるようになったのこと。子どもたちの意識も少しずつ変わり、勉強する子どもも増えてきて、最近では学力アップに繋がっているようです。そして来年（今年）、卒業後、専門学校に行く子もいるとのことでした。

卒業した子どもたちの、全てが全て上手く社会でやれているかというと、そうでもない現状もあるようで、昨年訪問した興正学園さん同様、卒業･退所していった子どもたちに対しては、２～３年は相談などがあれば迎え入れるし、頑張って社会に出てみたけど上手くいかずに、遠いところから自転車でやってきて、何カ月か、また一緒に生活したりなど、卒業･退所したから終わりというわけではなく、救いを求められれば手を差し伸べるという関係性は、ずっと必要なんだろうなと感じました。

人と人の関係、ましてや子どもとの関係であれば、これが正解なんてあるわけもなく、一人一人想いや考えも違うし、間違ってしまったときの代償も大きい気がします。常に責任が問われる仕事であることは、毎回訪問する度に実感させられます。

園長さんも話していましたが、大前提として、中途半端な気持ちで、この仕事に就くとしたら続かないし、子どもが好きでなければはじまらないとのこと。

子どもは、そもそも大人を信用できないところから、児童養護施設では始まっているので、当然中途半端な気持ちというのは見透かされ、その後の関係を築く上では、やっぱり難しいそうです。だから必要があれば、職員として休みの日であっても相談を受けたり、ただただ話を聞いてあげたりするそうです。話を聞けば聞くほど、本当に頭がさがる思いです。

過去に訪問させていただきました施設も含めて思い知らされるのは、親がいないから児童養護施設へ入ってる子どもというのは、今の時代では少ないのです。大半の入所している子どもは親はいます。だけど様々な理由から一緒に住めないのです。半数は虐待によることが原因だと思います。親が悪いのは当然ですが、これは別の視点で捉えると、親に対しても何かしらのフォローすることが、今は求められてきているのかも知れません。特に歌棄洗心学園さんでは中高生が多いことを考えてみると、思春期の年代で受けている虐待というのは想像を絶することだと思うし、なかなか癒えることのない傷を抱えているだろうし、その後の人生観を大きく左右されてしまうと思います。

そんな中でも、毎回訪れるわけでもない、私たちに対して笑顔を見せてくれる子どもたちは凄いなと思います。安直な表現ではありますが、本当に凄いと思います。どうか彼ら、彼女らにとって、大人になったときに出て行く社会が、過ごしやすい社会であることを願わずにはいられない、そんな心境です。

チャリティーライブに参加してくれた皆さんや、主旨に賛同してくれた皆さんの想いだけはしっかりとお伝えできたと思います。あらためて募金活動に協力していただきました皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。来年以降も継続して頑張って続けていきますので、ご協力いただけましたら幸いです。

以上で、簡潔ではありますが、寄付についての報告と活動報告とさせていただきます。

※ 昨年から会場費を、広告協賛･個人協賛というかたちで募るようになりました。一年目からのモットーとして諸経費は個人負担でまかなうと、皆様にお伝えさせていただきましたが、会場費は個人負担でまかなうには金額が大きすぎることを理由に、琴似商店街の協力いただきました店舗様を始め、個人の協賛に賛同してくださった皆様のご協力によって、会場費である「55,000円」をまかなうことができました。あらためて、心より厚く御礼申し上げます。

ただし、チケットの売り上げや、当日皆様からお預かりした寄付に関しては、一切会場費などには充てず、そのまま上記の売上総額の金額を寄付させていただいております。その点だけ、誤解なされませんよう、よろしくお願い申し上げます。

今年につきましても、多くのご協力により会場費はまかなうことができました。心より厚く御礼申し上げます。